

No.24

2006.11.30

いしかわ の遺跡

古代体験
学習講座

編むと組む



古代体験学習講座「編むと組む」は、古代の「衣」に関する講座として「なわってどんなもの」に続き、平成18年9月10日（日）に行われました。

埋文センター体験工房では、青森県三内丸山遺跡出土の通称「縄文ポシェット」をモデルに縄文時代の籠の製作を体験できますが、今回は、石川県小松市白江梯川遺跡出土品をモデルに弥生時代の籠の製作に挑戦していただきました。

参加者の方は、三種類の編み方で底から巻き上げていく体験に悪戦苦闘していましたが、古代の技術に感心するとともに、でき上がった籠に愛着を感じているようでした。

財団法人 石川県埋蔵文化財センター

Ishikawa Archaeological Foundation

〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1

TEL 076-229-4477 FAX 076-229-3731

E-mail mail@ishikawa-maibun.or.jp

ホームページ <http://www.ishikawa-maibun.or.jp/>

平成18年度 ^{よそお}まいぶん考古学講座「装いの考古学」

センター職員が講師となって身近な話題をわかりやすく解説し、毎年、好評を得ている「まいぶん考古学講座」が、今年度も、平成18年5月21日(日)から5週連続で開催され、延べ150名の方々が受講しました。

「装いの考古学」を統一テーマに、各時代・各視点から解説が行われましたが、実物を交えながらの講義に参加者も理解を深めたようです。

長く土中に埋もれていた出土品が当時のままであることは稀ですが、講義を聞くにつれて、参加者にはその姿が色鮮やかによみがえってきたようです。



平成18年度 ^{いにしえびと}いしかわの発掘展「古人の装いと彩り」

平成18年7月21日(金)から8月31日(木)にかけて、いしかわの発掘展「^{いにしえびと}古人の装いと彩り」が開催されました。

人は古くから、化粧をしたり、装身具や衣服を身につけることによって、自分を美しく見せたり、霊的な力を得たり、さらには暮らしの中での互いの役割や身分などを確かめたりしてきました。

今回は、県内の遺跡から出土した縄文時代前期(約6,000年前)以降の装身具や衣服に関連する約120点の出土品から、古人の「装い」と「彩り」について紹介しました。



平成18年度 古代体験学習講座「なわってどんなもの」

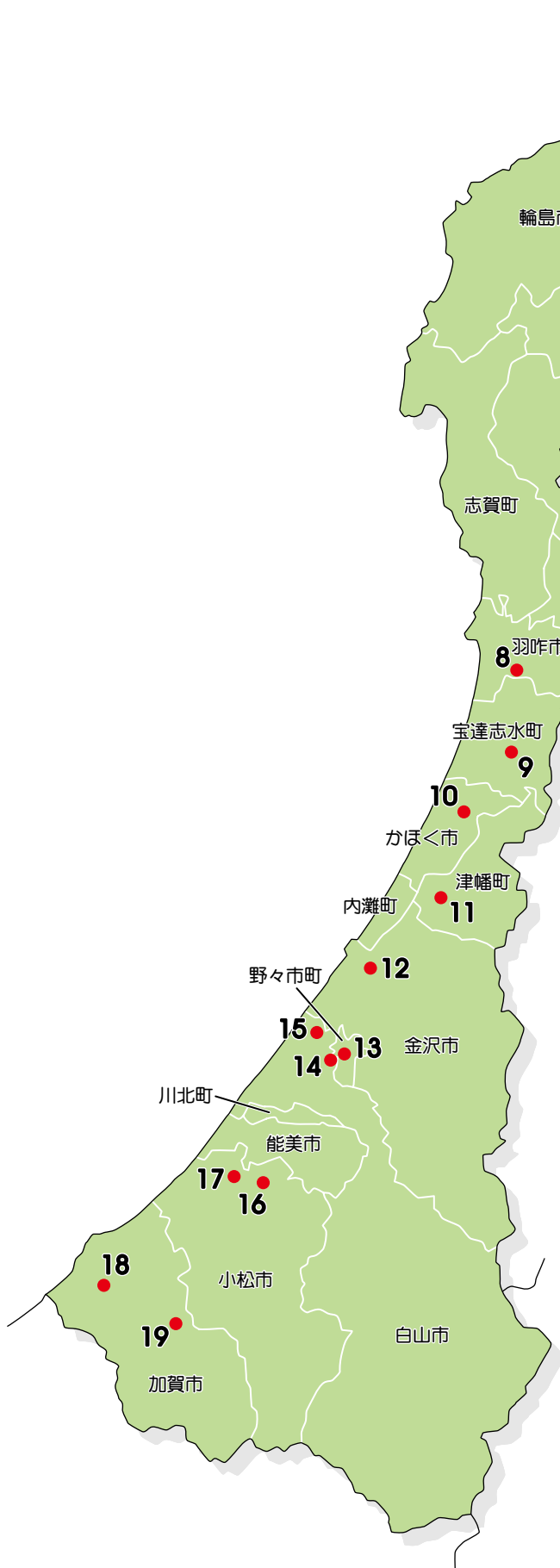
古代体験学習講座「なわってどんなもの」は、平成18年7月29日(土)に行われました。

講座では、ガイダンスの後、「野からむし」の茎から表皮を剥ぎ取るところから始まり、繊維素材を取り出す「おひき、糸績み、撚りかけ、縄ない」と進み、最後はループ指操作法という方法で組みひもづくりを行いました。

縄ないでは、参加者のお一人が、昔の体験を活かし、他の参加者を指導する場面もあり、和気あいあいとした講座となるとともに、古代の技術が現代まで受け継がれていることを実感することができました。



平成18年度 発掘調査遺跡



	遺跡名	所在地
1	栗津小学校遺跡	珠洲市三崎町栗津
2	大谷中学校東遺跡	珠洲市馬縹町
3	野々江本江寺遺跡	珠洲市野々江町
4	宿神社前遺跡	珠洲市宝立町春日野
5	七尾城跡	七尾市古屋敷町
6	古府・国分遺跡	七尾市国分町
7	大槻ブンゾ遺跡	中能登町大槻
	春木A・B遺跡	中能登町春木
	春木キッシュヨウ遺跡	〃
	春木ハチノタ遺跡	〃
8	太田A遺跡	羽咋市太田町
9	正友じんとくじま遺跡	宝達志水町正友
10	若緑ヒラ野遺跡	かほく市若緑
11	加茂遺跡	津幡町加茂
12	畝田・寺中遺跡	金沢市畝田西
	畝田遺跡	〃
	畝田大徳川遺跡	〃
13	三日市A遺跡	野々市町三日市
14	徳丸ジョウジャダ遺跡	白山市徳丸町・野々市町柳町
15	中新保遺跡	白山市中新保町
16	白江梯川遺跡	小松市白江町
17	大川遺跡	小松市大川町
18	熊坂花房砦跡	加賀市熊坂町
19	水田丸遺跡	加賀市水田丸町

平成 18 年度発掘調査から

大谷中学校東遺跡

大谷中学校東遺跡は、珠洲市馬^{まつなぎ}縹町地内の日本海に面した海岸段丘に立地し、背後には宝立山地が位置します。今回は、一般国道 249 号（大谷道路）改築工事を原因として発掘調査を実施し、古墳時代後期から古代にかけての製塩関連遺構と遺物がみつかりました。

調査の結果、3面の遺構面が確認されました。第1・2面は、古代の遺構面で、各々背後の丘陵地山土である灰白色粘土を利用して整地され、第3面は基盤層の灰褐色砂層で古墳時代後期～古代の遺構面にあたります。各面では、製塩炉をはじめ土坑、溝、小穴を検出し、多量の製塩土器とともに土師器や須恵器などが出土しました。

特に第2面（古代）では、調査区ほぼ中央の東西約 15m・南北 5m以上の範囲に、丘陵側からの流水を遮断する目的をもった排水溝が巡り、その内側には海側（北側）に開口部を持つ東西 2.4m・南北 2.4m以上のコの字状の溝内に製塩炉が存在したものと想定されます。製塩炉は、楕円形ないし略方形を呈する土坑状のものと、それらが連続して構築されたため溝状に捉えられるものが確認されました。これらの成果は、能登半島の土器製塩を考える上で貴重なものといえます。



調査区遠景（東から）



古代の遺構（第2面、上方が海側）



製塩炉の検出状況



土坑状の製塩炉

大川遺跡

梯川に接し、小松市街の北の玄関口に位置する大川遺跡は、水陸交通の結節点に形成された江戸時代の遺跡です。昨年度の発掘調査では、当時の町屋跡が確認されています。

今年度の調査区域では、江戸時代の幹線道路である北国街道と、小松城をとり囲んで巡らされていた堀跡の一部が見つかりました。



遺跡遠景（東から）

北国街道は非常に良好な状態で残っており、江戸時代約270年の間に、大きく3面の道路面が確認されました。最古段階の第3道路面は標高約90cmに設けられ、隣接する町屋の地面に比べ固くしていました。これより約60cm上に作られた第2道路面は、粘土の上に砂を重ね固くたたきしめ、上に玉砂利を敷いていました。この第2道路面については、隠居した加賀藩3代藩主前田利常が小松城に入城した寛永17年(1640)以降の、小松城下町が精力的に整備された頃の道路面ではないかと考えています。第1道路面も同様の版築手法をとり、路面には玉砂利を敷いていました。

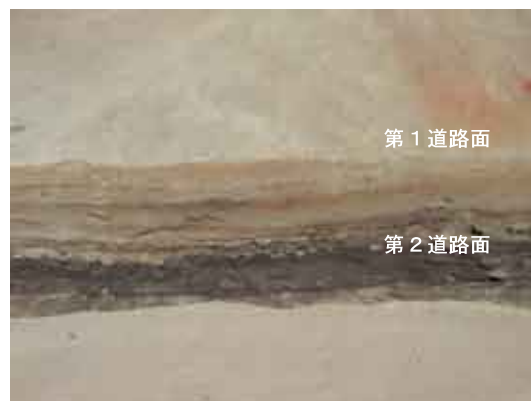
堀跡は幅約14m、堀中には橋脚の一部が残り、両岸には凝灰岩切石を4段あるいは5段重ねた、高さ約2.5mの非常に堅固な石垣（石垣1）が築かれていました。小松の玄関口たる偉容がみてとれます。また、この堀をさえぎるように築かれた石垣（石垣2）が確認されました。石垣2は、出土



完掘状況（東から）



堀西側の状況（北から）



道路断面

した陶磁器からみて、江戸時代の終わり頃に行われた堀幅縮小に際して、護岸と修景をかねて積まれたものと思われます。

平成18年度 古代体験学習講座「土器づくりと土器野焼き」

センター開所以来人気の講座である「土器づくりと土器野焼き」が今年度も開催され、延べ約50名の方が参加されました。

5月20日(土)土器づくりの様子



本物をよく観察します



「こやるんだよ」「へえ～」



真剣なまなざし・・・



かっこよくなった？



まずは良くあぶります



色が変わればあぶり完了



みんなで薪をくべて本焼きです



野焼きならではの仕上がりです

平成18年度 親と子の発掘体験教室

今年は8月5日に七尾市古府・国分遺跡、8月19日に金沢市畝田・寺中遺跡で実施しました。



調査現場にて遺跡の説明
(古府・国分遺跡)



暑い中みんな頑張って掘っています
(畝田・寺中遺跡)



遺物を慎重に掘り出していきます
(畝田・寺中遺跡)



掘り出した土器などを洗っています
(畝田・寺中遺跡)



ラジオの取材がありました
(古府・国分遺跡)



能登国分寺跡の見学会
(古府・国分遺跡)

収蔵品ギャラリー

当センターが保管している数多くの出土品の中から、選りすぐりの「収蔵品」をご紹介します。今回のテーマは「江戸時代の装い」です。

収蔵品No.7・8

こうがい かんざし

筍・簪 —金沢市木ノ新保遺跡—

筍(こうがい:写真左2列、ガラス製)は、もともとは、髪を掻き整えるためのもので、後に髷(まげ)を結うための道具に、さらには、装飾品ともなっていたものです。

他方、簪(かんざし:写真右2列、左;ガラス製(一部は筍の可能性もあります)・右;真鍮製)は、筍が装飾的な機能をもつにつれ、それが単に髪飾りへと変化したものです。

木ノ新保遺跡は、江戸時代の金沢城下の北西縁にあって、概ね、墓地→足軽組屋敷→三田村氏下屋敷へと変遷し、今は、JR金沢駅構内となっています。

ご紹介品は、一部時期が不明なものがありますが、その多くは上記下屋敷段階(18世紀後半～19世紀)のものです。

近年、石川県では、金沢城下を中心に近世(江戸時代)遺跡の発掘調査が進展し、中世以前に比べ文献史料が多く残されているとはいえ、それら文献のみでは窺うことのできない人々の暮らしが明らかになりつつあります。

本品も、伝世品とは趣を異にして、当地での暮らしぶりの一端を生き活きと伝えてくれています。

No.7

No.8



訪ねてみよう能登・加賀の遺跡

かんまち 県指定史跡 上町マンダラ古墳群

七尾市中島町（旧中島町）上町に所在する上町マンダラ古墳群は、のと鉄道・能登中島・駅から北西に1.5km、別所岳に源を発する熊木川の西岸に張り出す丘陵の北端部（標高約24m）に立地する2基の前方後方墳（1・2号墳）からなる古墳群です。規模は、

- ・1号墳：全長18m、前方部長6m、前方部先端幅6m、くびれ部幅3.5m、後方部幅14m
- ・2号墳：全長21m、前方部長8m、前方部先端幅8m、くびれ部幅4m、後方部幅13m

といずれも小規模ですが、昭和53年（1978）、町立熊木小学校（当時、現市立中島小学校）敷地造成に係る調査により概要が確認され、能登では最北端に位置する前方後方墳（現在でも、少なくとも内浦側では同様）として、また初源的な形態を呈する（古墳時代初頭（約1,700年前）の最古の一群に属する）ものとして価値が高く、昭和55年10月、県指定史跡となっているものです。

発見から四半世紀以上が経過しましたが、当地に立つと、今なお、熊木川とそれが注ぎ込む七尾西湾などなど、往時に執り行われたであろう葬送儀礼に思いを馳せるに相応しい眺望が広がります。

- ✓ 位置：のと鉄道・能登中島・駅より徒歩30分
- ✓ 所在地：七尾市中島町上町
- ✓ お問い合わせ：七尾市教育委員会文化財課
電話 0767-53-8437



上町マンダラ2号墳

